

活塾草紙 その弐

じゅげむ



最も有名な落語といえば、「まんじゅう
こわい」と双璧をなすのが「じゅげむ」で
す。おしょうさんにめでたい名前をつけても
らったのはいいが、あまりに長い名前で呼
ぶだけでたいそう時間がかかる。それがた
めに起きるドタバタを笑う滑稽話です。私が
いちばん頼りにしているテキストは、小佐
田定雄さんの『5分で落語の読み聞かせ』
(PHP)ですが、これには続編が二冊あ
ります。小佐田さんは、それぞれの巻頭に
「じゅげむ」とその改作を載せています。一
巻では「じゅげむじゅげむ」と名を呼ぶ
間にたんこぶがひっこむ原型を載せるも、
続編では小佐田流アレンジが冴え渡ります。
テストで名前を書いていると時間切れにな
る、選挙カーで名前を連呼していたら落選
する、ボクシング選手になったらリングア
ナウンサーが名前を呼ぶ間に相手が怒りだ
してしまふ、など。「じゅげむ」の職業や立
場を替えるだけでおもしろいエピソードが生
まれます。

(裏面に続く)

子どもたちにとってこれほど語りやすい演目は他にありません。なぜなら「じゅげむじゅげむ、ごここのすりきれ、かいじやりすいぎよの…」と名前を覚えてしまえば、話の大半を覚えたことになりま

す。あとはお母さんが朝起こすとか、友達とけんかするとか場面を変えて繰り返します。高尾小学校では、代々中学年が十八番にしてお客様に披露しています。

前座話としてあまりに有名過ぎるためか、実際の寄席や高座でこの「寿限無」を聞いたのはたった一度しかありません。前座であつてもプロとアマでは歴然とした違いがあるものですが、残念ながら、あまりおもしろく思えませんでした。高尾小の子どもたちの方がよっぽどおもしろいと思いました。話の巧拙ではありません。落語は、子どもが主役の話が意外と少なく、「じゅげむ」はその意味では貴重な話です。子どもを演じるには、やっぱ子どもがいちばんしつくりきます。「じゅげむじゅげむ…」とただとどしくも一生懸命語っている姿は、ほほえま

しさがベースにあるためか、笑いを誘引しやすいよう

です。それに、小さな子どもの声でリズムカルな

「じゅげむ」を聞く、それだけでも気分が高揚するのかもしれない。いつでもどこでもよく受けま

す。

今年、三遊亭白鳥さんの「寿限無」を聞く機会がありました。白鳥さんは、創作落語の名手として人氣があり、ちよつとぶつ飛んだ笑いを作らせたらピカイチです。彼が正統「寿限無」をするはずなく、案の定「スーパー寿限無」というタイトルで話を始めました。めでたい名前をつけてもらうために相談に行つた先は、白鳥師匠。「今の人類に最も必要なものは何だ。愛だろう。愛はフランス語でジュテーム。二つ重ねてジュテームジュテーム。」という調子。館内大爆笑でした。

どんなアレンジにも応じて新しい笑いを作り出す、というよりアレンジをさせずにはおかない

「じゅげむ」は実に懐の深い偉大な話であります。

文 宮森健次

画 儀満悦子